

## A 県内看護管理者の継続教育研修に対する受講支援の実態

キーワード：看護管理者 継続教育 研修受講支援

○奥山はるみ 渡辺千奈美 西村明子 内田一美

渡邊清美 水下陽子 海野聖子 雨宮ふく美

奥脇百合子 小田静 北川なおみ 齋藤弓子

新藤真由美 土屋真理子 永田明子 中山美加

日澤けさ美 松野優子 望月美恵 池田直子

小宮山裕子 堀口まり子 (山梨県看護協会教育委員会)

### 【はじめに】

看護者は継続学習による能力の維持・開発に努める責務がある。勤務しながらの自己研鑽には、個人の意識変化や努力、施設内外での継続教育体制のみならず、看護管理者の支援が不可欠である。

### 【目的】

看護管理者を対象に継続教育体制や研修受講支援の実態を調査し、施設規模や教育体制による特徴を明らかにすることで今後の研修企画への示唆を得る。

### 【方法】

対象：県内で看護協会員を有する 230 施設の各管理者。調査期間：2017 年 3 月。調査方法：質問紙調査法，調査内容：1)基本属性，2)対象施設 7 施設；行政機関 [以下，行政]，400 床以上の病院 [病院 A]，100～399 床の病院 [病院 B]，99 床以下の病院 [病院 C]，訪問看護ステーション [訪看]，介護施設 [介施]，その他，3)教育体制，4)研修支援状況と支援時に重視する事柄。分析方法：項目ごとの記述統計，および項目間の推測統計には  $\chi^2$  検定 (有意水準 5%)。

### 【倫理的配慮】

本調査は公益社団法人 A 県看護協会理事会の承認を得た。対象者には調査主旨，参加の任意性，個人情報保護，結果の公表等を文書で説明し同意を得た。

### 【結果】

対象 230 施設に調査し 139 施設より回収 (60.4%)，有効回答は 103 施設であった。1. 教育体制；教育委員会ありは全体の 49%で，病院 A，B は 100%，病院 C，介施は約 70%，訪看は 44%であった。クリニカルラダー (以下ラダー) 導入は全体の 27%，病院 A，B は 80%以上，その他は約 10%であった。協会研修を施設内研修に位置づけているのは全体の 46%で，病院 A 0%，病院 B，C 約 80%，介施 50%，訪看 56%であった。2. 研修受講支援時に重視する事柄；12 項目のうち，施設間では「費用の負担」，「施設ラダーとの一致」に ( $\chi^2=16.5$ ， $df=6$ )，教育体制では「施設ラダーとの一致」が教育委員会，ラダー，協会研修の研修位置づけの有無で ( $\chi^2=4.0$ ， $7.9$ ， $4.6$ ， $df=1$ )，「受講しやすい時間帯」は協会研修の位置づけ ( $\chi^2=3.8$ ， $df=1$ ) で有意差があった。

### 【考察】

看護管理者の研修受講支援には，施設規模や施設内の教育体制，特にラダーとの一致が関係しており，ラダーの周知や施設ラダーとの関連に考慮した教育計画構築の必要性が示唆された。

### 【結論】

看護管理者の研修受講支援には施設の教育体制と看護協会の位置づけが影響していた。